

commonconcern

A PUBLICATION OF THE WORLD YWCA / PUBLICATION DE LA YWCA MONDIALE / PUBLICACIÓN DE LA YWCA MUNDIAL

IN THIS ISSUE

YWCA SETTING THE AGENDA

Envisioning the Future

Women's leadership in the Bible

YOUNG WOMEN CLAIMING THEIR RIGHTS

From a camper to a youth leader

BEYOND 2015

Gender equality for the new era

DANS CE NUMÉRO

L'AGENDA DE LA YWCA

Une vision pour l'avenir

Leadership des femmes dans la Bible

LES JEUNES FEMMES REVENDIQUENT LEURS DROITS

Des camps de jeunesse au leadership

AU-DELÀ DE 2015

Egalité des genres pour une nouvelle ère

EN ESTE NÚMERO

LA AGENDA DE LA YWCA

Un Proceso Visionario

Liderazgo de las mujeres en la Biblia

MUJERES JÓVENES RECLAMAN SUS DERECHOS

De acampante a líder juvenil

DESPUÉS DE 2015

Igualdad de Género para la Nueva Era

特集:YWCA 非暴力キャンペーン

若い女性のリーダーシップ



World YWCA

目次

はじめに	1
YWCA の課題	3
未来に向けてビジョンを描く	
聖書に見る女性のリーダーシップ	5
ビジョンの共有	7
少女と若い女性のための団体から少女と若い女性による団体へ	
地域とつながる	9
ドイツ YWCA 太陽光を瓶詰めに！	
経済的エンパワメントを支援するフィンランド政府	10
プエルトリコ YWCA ワークショップで若者を導く	11
ザンビア YWCA 強制婚から若い女性を救い出す	12
世界とつながる	13
2014 年国連人権理事会をふり返って	
権利を主張する若い女性たち	15
キャンパーからユースリーダーに	
2015 年以降への展望	17
新しい時代のジェンダー平等	
YWCA のリーダーたちによるリーダーシップ名言集	19
キャンペーン	20
「どんな言い訳も許さない」キャンペーン	

英文発行：世界 YWCA

会長：デボラ・トーマス・オースティン

総幹事：ニャラザイ・グンボンズバンダ

翻訳：セリーヌ・ブワソン、マリア・ブランカ・フエレ

デザイン：ルーシー・イローエンヨシ、NeatWorks, Inc

はじめに

世界 YWCA 総幹事

ニャラザイ・グンボンズバンダ



2014 年が終わりに近づくとつれ、2015 年以降に向けて熟考し、ビジョンを描くことが、これまで以上に差し迫った現実となってきました。世界 YWCA は、この過程全体において常に主要な役割を果たし、ポスト 2015 年開発アジェンダにおいて、女性や若い女性および少女が確実に優先事項として認められるよう、取り組んできました。世界 YWCA、そしてそこに連なる権利を主張する若い女性たちは、国連人権理事会・女性の地位委員会（CSW）・女性差別撤廃委員会（CEDAW）・北京+20（世界各地で開かれた北京行動綱領の 20 年後を振り返る会議）など、主要な国際会議に参加・貢献し、断固たる態度で自分たちの意見や要求を力強く明確に語り、ジェンダーの平等、健康と福祉の保障、および若い女性の経済的機会を、ポスト 2015 年開発アジェンダに盛り込むよう、主張してきました。

児童婚や早婚および強制婚の廃止に焦点を当てることは、世界 YWCA および加盟 YWCA の一年を通じた活動の中心となっています。私たちは、規範の変更を求めて信仰や宗教の指導者たちと協議し、国連に対して決議を採択し少女への虐待の撤廃を公約するよう要求するなど、リスクにさらされている少女を援助するために、最も必要性のあるコミュニティに介入を続けてきました。世界 YWCA は他の組織と共に活動することにより、「児童婚の撤廃」をポスト 2015 年開発アジェンダの指標とすることができました。また、アフリカ連合は児童婚撤廃のための 2 年にわたるキャンペーンに着手しました。

世界 YWCA は、YWCA 非暴力週間に、女性への暴力を撤廃するために世界規模でさまざまな関係者が関わる「どんな言い訳も許さない（#NoXcuses）」キャンペーンを開始しました。このキャンペーンは、女性への暴力を終わらせ、どのような言い訳も暴力を正当化できないことを粘り強く主張し闘い続けるよう、YWCA やエキュメニカル運動を活気づけるものでした。私たちは、コロンビア・北京・ソロモン諸島・デンマークなどから、メッセージを発信しました。世界教会協議会（WCC）総幹事のオラフ・フィクセ・トヴェイト師は、女性や少女への暴力に反対する諸教会を代表して力強いメッセージを発しました。前世界 YWCA ユースコーディネーターで UN ウィメンのムランボ＝ヌクカ事務局長をはじめ、国連からも、このメッセージに対する反響がありました。

目標達成のためには加盟 YWCA の貢献が不可欠であることを認識している世界 YWCA は、若い女性

のリーダーシップおよびアドボカシー・スキルの養成と、彼女たちの基本的人権に対する意識の向上を常にはかってきました。今年度も、YWCA 国際研修がさまざまな地域で行なわれ、大きな成果を上げました。最近では 2014 年にコロンビアのボゴタで開かれ、若い女性たちが参加しました。これは、YWCA 運動の将来について考え、さまざまな世代が主要領域について話し合ってきた一連のワークショップに続くものでした。3 月には、性と生殖に関する健康と権利および HIV を考える YWCA 国際研修がタンザニアで開催され、世界各地からの女性が集い、若い女性の性と生殖に関する健康のニーズと権利が満たされるための行動を起こすよう呼びかけました。

YWCA 運動のアイデンティティ・目的・未来・キリスト教に基づく価値が、現在行われている再検討の過程においても中心に位置づけられています。「2035 年に向けたビジョン構築」は、これから 20 年の活動を早送りで見ると、豊かで大胆なプロセスです。ビジョン構築に関する調査票と 3 回の円卓会議（直近ではコロンビアのボゴタで行われた）により、2015 年の世界総会で発表される斬新で画期的な展望は、すでに描かれているのです。

タイ・バンコクでの 2015 年世界 YWCA 総会開催が近づいています。2015 年は YWCA 運動にとってエキサイティングでやりがいのある成長と希望の年であり、世界中の女性や若い女性および少女の未来にとっての躍進と打開の年となるでしょう。運動の未来を築くにあたり、これまで何世代にもわたって貢献してきた多くの女性たちの人生と貢献を、今後も祝い続けましょう。彼女たちは活動に情熱の炎を燃やし続け、世界の女性とその家族のために約束を守り続けているのです。

YWCA の課題

未来にむけてビジョンを描く

世界 YWCA 会長

デボラ・トーマス・オースティン(博士)

世界 YWCA は、最近、コロンビアの首都ボゴタにて、若い女性のリーダーシップに焦点を当てた、第 3 回 2035 年にむけたビジョン構築円卓会議を終えました。過去 2 回の円卓会議ではそれぞれ、女性の権利とリーダーシップ(2013 年 10 月、台湾)と、持続可能性、アイデンティティと運動構築(2014 年 5 月、ヘルシンキ)に重点的に取り組みました。

台湾での会議では、160 年近くに及ぶ YWCA 運動の歴史の基盤と遺産に立脚している強みを、再確認しました。また、女性のリーダーシップを促進する一方、女性の権利とジェンダー平等についての課題を設定し、影響を与えてきた成果を振り返りました。参加者は、既存の男性支配の制度に対抗して、将来、女性も力を手にし、用いることを心に描きました。既存の男性支配の制度においては、支援しエンパワーするためよりも、支配し独占するために力が用いられています。ヘルシンキでは、柔軟かつ革新的な会員基盤の組織にとって、財政的な持続可能性が YWCA 運動の重要なビジョンであることを確認しました。YWCA 運動は、その基本的要素として、キリスト教に基づく価値を表明し続けています。YWCA は今後も、すべての多様性を受け入れ、さまざまな世代の女性の手による、女性に焦点を当てた人権基盤の運動体であり、女性の社会的公正を実現することに重点を置いていきます。

世界 YWCA は、上記の 3 回の公式な円卓会議に加えて、2035 年にむけたビジョン構築に幅広く参加する機会を提供してきました。例えば、以下のイベントにビジョン構築セッションが組み込まれていました。

- 女性に対する暴力(VAW)に関する YWCA 国際研修(ITI)(2012 年 11 月、韓国ソウル)
- 国連女性の地位委員会(CSW)におけるビジョン構築夕食会(2013 年 3 月、ニューヨーク)
- 加盟 YWCA ビジョン構築調査協議(2013 年 3 月～8 月)
- 若い女性の国際リーダーシップ研修(2013 年 5 月、バンコク)
- 国際若い女性のカリブ海&北米サミット(2013 年 6 月、バルバドス)
- 世界 YWCA スタッフ修養会(2013 年 9 月、ジュネーブ)
- 世界 YWCA 運営委員会(2013 年 10 月、バンコク)
- 世界 YWCA ウェブサイトにおけるオンライン協議(2013 年)
- 加盟 YWCA による国内協議

各会議での話し合いの中から、YWCA 運動の計画的な方向性について、重要なメッセージが浮かんできました。YWCA が目指すのは若い女性の組織であり、それをシニアの女性がメンタリングし、リーダーシップを支援し分かち合うことになるでしょう。今後も女性リーダーを養成し、女性の人権とエンパワメントを向上・推進し、擁護し、主張し続けます。また、YWCA リーダーシップ研修を受けたリーダーたちのグローバルなネットワークを生み出していきます。2035 年にも、世界 YWCA 運動は財政的に持続可能であり、変化し続けるグローバル経済や、団体運営、周囲の状況に対応し続けていることでしょう。

この数年間、世界 YWCA は多くの課題に直面し、多くの成功を収めてきました。財務能力を強化し、YWCA の価値ある活動を喜んで支援してくださる、昔からの、そして新しい寄付者の方々に訴え続けています。YWCA は、女性の権利とエンパワメントを世界中で主張するリーダーとして定評があり、各国政府や国際機関、個人や団体、教団教派を超えた寄付者の目に留まる存在となっています。現在起きている中東での紛争や、南スーダン、ネパール、ウクライナなどの新たな紛争に取り組む中で、正義ある平和を主張する活動は、新たなパートナーを惹きつけています。世界 YWCA の歴史の中でもこのような活気に満ちた時期に、会長を務めさせていただくのは名誉なことです。YWCA の過去の業績を認め祝いつつ、新たな進路を定めて、約束と機会、責任に満ちた、輝かしい未来を築き上げていきたいと思ひます。



聖書にみる 女性のリーダーシップ

グラーツ大学宗教学部教授(博士)
ウルリケ・ベックマン



人々を導く女性たちの話は、聖書の中の重要な部分です。女性が独創的な方法で人々を導いたのは、主として危機的な状況の中でした。そこには、私たちが学ぶべきことが多く含まれています。出エジプト記の1から2章によれば、モーセはその誕生時に殺害されるはずでしたが、女性たちの尽力で命が救われました。彼女たちがいなければ、モーセは生きていませんでした。聖書の記述をよく読むと、彼女らの戦略や態度に、創造的で、勇気ある、変革をもたらすリーダーシップを見ることができます。

エジプトの男児殺害命令を受けた助産婦のシフラとプアーは、神への信仰から、ファラオの殺害命令に背きました。このきわめて難しく危険な決意に関しては、ごく簡単に書かれているだけです。彼女たちは状況をよく見て、判断し、行動したのです。ファラオの命令は悪であると見てとり、神の意思はモーセの命を救うことであると判断し、ファラオの命令に背く行動を開始しました。協力して抵抗を始めたのです。モーセの命を救い育てるのには、彼女たちだけでは足りず、もっと多くの女性が必要でした。

イエスは「独りでは行くな」と使徒たちに言っています。この言葉には理由があります。それが汚職であれ、女性に対する暴力であれ、人々に対する不正や残虐行為であれ、犯罪を公然と指摘するには、勇気と、周りの人たちの支えが必要です。

変革をもたらすリーダーシップとは、社会・政治・経済・民族性・文化などの境界や制約にとらわれないものです。つまり、争いや憎しみを固定化し、共に働くことを妨げている「私たち」対「彼ら」という考え方を、乗り越えていくことを意味します。モーセの物語で、支配者と被支配者のそれぞれの側にいた2人の娘たちは新しい考え方をしていきます。モーセの姉は、幼いモーセにどのようなことが起きているのかをしっかりと目撃していました。彼女は決まりにとらわれずに考えなければなりませんでした。今こそまさに行動を起こす時だと知って、彼女はファラオの娘に話しかけ、憎しみや敵意の壁を越えました。ファラオの命令により分断され、敵同士になっていた支配者の娘との間に、橋を架けたのです。ファラオの娘も一線を越え、暴力に抵抗し、協力して行動する意志を持って、新天地を開きました。

モーセの姉とファラオの娘は、偏見や政治的立場の違いは無視するという姿勢を選びました。子どもを子どもとして見、人間を人間として見る姿勢を貫きました。この姿勢は、人間を分類しているスティグマ(烙印)

にとられずに、物事を見ることを可能にするものです。烙印とは、人間を「私たち」と「彼ら」に分類し、人間性を消し去り、他の人を敵・異邦人・貧民・女（男ではない）・同等の権利を持たない人・異民族といったレッテルを貼ることです。すべての人が等しく人間であり、感情があり、何かを必要としており、苦しみがあり、独自の才能を持ち、弱みも持っているという認識がある限り、他人の人間性を無視し、他人を攻撃することを正当化することはできません。分類することは、他人の権利が剥奪されるのを見ても、痛みを感じる能力をなくさせるものです。

聖書の、若い女性がリーダーシップを発揮した多くの場面は、将来必要となる、慣習にとられないリーダーシップの核となる選択や資質について語っています。神は不在のように見えますが、出エジプト記の記述は、神は聴いており、見ており、知っているという希望があるということを保証しています。つまり、神は実在します。しかしこの信念に必要なのは、神を信じるという決意です。神を信じるという決意と次のメッセージは両立します。若い女性を信じれば、彼女らは命のために行動できます。

ビジョンの共有

少女と若い女性のための団体から 少女と若い女性による団体へ

国際市民社会センター 理事
ブルクハルト・グナリッグ(博士)



過去2年にわたり、国際市民社会センター(International Civil Society Centre)は、市民社会セクターに分裂をもたらす変革を起こせるか、YWCAのような国際的な市民社会団体(ICSOs)がそうした変革をうまく導くために何ができるか、という問いかけに取り組んできました。市民社会セクター内外のオピニオンリーダーたちと共に、ICSOsに分裂をもたらさうる変化とはどのようなものかを検討し、YWCAに関連する3つの重要な問題を確認しました。

1. 世界的な分裂

地球の人口が、現在の70億人からそう遠くない将来に90億人になると、豊かな生活を送るための十分な資源が、住民全員に提供されなくなります。資源が不足し、不平等が拡大し続けると、女性、特に貧しく社会の片隅に追いやられた女性は、とりわけ弱い立場に立たされます。YWCAは、自分たちの熱望していることと外界の現実の格差が、外の世界では縮小するよりむしろ拡大し続けていることに気づくでしょう。

2. 政治的分裂

豊かな国・貧しい国を問わず、ますます多くの国において、そしてすべての大陸において、市民の権利は脅威にさらされ、市民参加の場は縮小しています。女性の権利のために政治的支援を結集することはますます難しく、危険を伴うようになるかもしれません。特定の地域や国々においては、YWCAの活動がやりにくくなったり、ことによると妨害されたりする可能性があります。

3. 技術的分裂

デジタル・コミュニケーションの手段やインターネットが、世界中の貧しい人々や社会の片隅に追いやられた人々にもますます普及し、そのような人々を、多くの場合エンパワーします。情報へのアクセスの大幅な改善・ネットバンキング・eラーニングなどの新しいサービスの多くは、とりわけ女性をエンパワーします。女性たちは以前ほど他者に頼ることなく、自分たちの権利を十分に主張することができるようになります。このような望ましい進展の結果、YWCAの活動対象の少女や若い女性のイメージを見直すよう、そしてことによっては改めるよう、世界YWCAは求められるかもしれません。光栄にも私たちの団体と一緒に進めていく

ことになった「2035年にむけたビジョンの構築(Envisioning 2035)」の最近の会議にて、私たちはYWCAが少女と若い女性のための団体から、少女と若い女性による団体へ変革する必要があるのではないかということについて話し合いました。

これは何を意味するのでしょうか？今日、デジタル・コミュニケーションは、何百万人もの貧しく、社会の片隅に追いやられ、そして抑圧された女性や少女に情報やサービスを提供するだけでなく、彼女たちの自立心や自信を強めています。新しい技術を簡単に使いこなす若い人々は、伝統的な団体からの支援がほとんどなくても、インターネットによって自らを組織化することが可能になります。したがって、現在や将来の「インターネット世代」である少女や若い女性にとって意義のある団体であり続けていくために、YWCAは若い女性による組織へと転換する必要があります。少女や若い女性がYWCAを自分のものとすることを応援することは、YWCAの意思決定において彼女たちに重要な役割を与えるということを意味します。2035年には、YWCAは主に30歳未満の女性によって管理運営されるようになるでしょう。

しかし、これは若い女性が力のある立場に立つというだけでなく、力のある立場の在り方そのものが変わらなければならないということでもあります。すなわち、多様な働き方や人間関係の築き方を考慮し、若い子どもを抱える女性の要求をより満たし、年配者や経験の豊富な女性からのアドバイスやフィードバックの機会を与えるといったことなどです。

20年先を見据えることは、とても勇気がいる行動です。世界YWCAは、このビジョン構築に勇気をもって取り組んできました。現在、YWCAはこの勇気を維持し、将来計画を大胆に考える必要があります。第一にYWCA内において少女や若い女性をエンパワーし、他団体に対して手本を示すことは、より大きな目標への重要なスタート地点となるでしょう。

地域とつながる

ドイツ YWCA 太陽光を瓶詰めに！

2014 年 3 月、ドイツ YWCA は世界 YWCA デーを祝って「世界一周朝食会」を開催しました。朝食会では、太陽光発電装置と太陽光エネルギーが、いかにたやすく女性の生活に永続的な効果をもたらせるかについて話し合われました。その後数ヶ月にわたり、ドイツ YWCA とナミビア YWCA は協力してソーラージャーの開発に取り組みました。ソーラージャーとは、蓋にソーラーパネルと LED ライトを取り付けた、1リットル用広口瓶で、昼の間に太陽光で充電されると、夜間約 6 時間発光します。この「瓶詰めの太陽光」は、実に魅力的で有益なアイデアです！

この心躍る共同作業の背景には、従来の有害で火災の危険のある灯油ランプに代わるものとしてソーラージャーを開発するという意図があります。さらに、灯油は高価なので、ソーラージャーを使えば家計も助かります。「コンソール・ソーラージャー」は、一度購入すれば維持にお金はかかりませんし、電力が充分供給されない地域や全く供給されない地域に、無料で灯りをもたらすでしょう。「コンソール・ソーラージャー」によって、人々の生活はより安全で楽になります。この共同作業は、今のところナミビアだけで運用されていますが、他の国々にも普及するよう願っています。

ヨーロッパにおいて今後「コンソール・ソーラージャー」は、代替エネルギーの利用に関する人々の意識を高め、電気料金が着実に上がっていくにつれ、太陽光エネルギーがいかにエネルギー消費の節約を可能にするかを証明するでしょう。

皆さん、この魅力的で胸躍るプロジェクトに是非注目してください！



経済的エンパワメントを支援するフィンランド政府

紛争によってあらゆるものが損なわれた世界において、平和構築のプロセスに女性が参加することは極めて重要です。世界 YWCA は、中心的な事業として、女性と若い女性のリーダーシップ養成を実行してきましたが、フィンランド政府の支援を得て、モザンビーク・南スーダン・ミャンマー・ネパール・タンザニアの各 YWCA と共に、3 カ年プロジェクトを開始しました。

世界 YWCA は、国連安全保障理事会 1325 号・国連人権理事会やその条約機関・国連女性の地位委員会・国連女性差別撤廃委員会についての教育や活動を継続しています。このプロジェクトの意図していることは、人権擁護・ジェンダーの平等・安心と安全といった理念の推進のため、YWCA の能力を強化し、経済力をつけるべく、職業訓練プログラムを上記の 5 カ国で実施することです。また、このプロジェクトは、参加している 5 つの YWCA の能力を育成し、ジェンダーの平等と平和構築を互いに関連付けることを、主要な目的としています。経済力強化プログラムの対象者とされるのは、若い女性たちです。そこでは、情報通信技術 (ICT) に関する職業プログラムを受けられ、面接スキルが向上し、就職する際に十分な知識を身につけることができます。

経済的に自立し、エンパワーされた女性たちは、地域および国家レベルで平和構築に貢献する力が身についています。彼女たちには、平和と安全に関する、国家、地域、国際レベルの会議でアドボカシー活動や平和構築に参加することが期待されます。



プエルトリコ YWCA ワークショップで若者を導く

プエルトリコ YWCA の若い女性は、近年さまざまなワークショップに参加しており、その内容は、健全な人間関係や性教育に関するものから、バレーボール・ヨガ・アートやクラフトまで多種多様です。さらに、2015 年 1 月からは、プエルトリコ美術館と共同でデジタルアートやナラティブ(語り)、写真撮影などのワークショップを週 2 回開催し、若い女性に積極的に参加する貴重な機会を提供していきます。

2014 年 9 月には多数のワークショップとテーマ別会議が開催されました。問題解決ワークショップでは、プエルトリコ YWCA ボランティアで、ソーシャル・ワーカーとしての経験が豊富なマリア・ピネロの指導の下、13 歳から 19 歳までの若者が、学校や家庭など自分たちの生活環境での経験を共有し、問題解決に向けて、自尊心・建設的な対話・自身および他者の尊重などについて学びました。リーダーシップに関するワークショップ「ツリー・プロブレム(TreeProblem)」では、女性に対する暴力・自己イメージ・中途退学という若い女性の日常に直接影響する 3 つの重要なテーマを取り上げました。

10 月の「非暴力週間」には、世界の女性に対する暴力の問題を取り上げたワークショップが開催され、若者たちが熱心に討論を繰り広げました。もうひとつのユニークなワークショップは、有毒廃棄物とリサイクリングに関するもので、環境科学者のマイラ・サンチェとノライダ・マルティネスの 2 名が指導しました。その結果、初めて若い女性たちが、紙・アルミニウム・プラスチックをリサイクルするための容器 3 個を使ったりサイクルの仕組みを作成しました。

プエルトリコ YWCA は、日常生活で賢明な意思決定をするためのスキルとツールをワークショップ参加者が身につけることができるよう、刺激的で多方面にわたるプログラムの提供に尽力しています。



ザンビア YWCA 強制婚から若い女性を救い出す

ザンビア YWCA は、世界 YWCA の「変革への力基金」を通して、望まない妊娠・早婚・強制婚などに対する人々の意識を高めるために積極的に活動し、少女や若い女性とその家族にこうした問題への対応を指導しています。

ムナルラ・ムチマは 1999 年にザンビアのムラマティラで生まれました。2011 年、父親が亡くなり母親は一家を支えるために子どもたちを残してブロジ平原に働きに行きました。3 週間後に戻ってきた母親に、ムナルラは男から性交渉を強いられたと言いました。このことは警察当局には通報されず、4 カ月後、母親はムナルラが妊娠していることを知りました。

責任を負うべき男は、すでに妻が数人いるカオマ町区の 39 歳のビジネスマンでした。彼が妊娠させたことを認めたので、ムナルラの家族は彼との結婚をムナルラに強制しました。

ザンビア YWCA は、NORAD（ノルウェー開発協力庁）が資金提供した「性と生殖に関する健康と権利（SRHR）プログラム」を通して、ムナルラと出会いました。プログラムには戸別訪問キャンペーンがあり、早婚や強制婚の少女や十代の母親が直面する課題に対する人々の意識を高めることを目的としています。ムナルラは地域 YWCA を紹介され、一連の相談会に出席した後、夫と別れて学校に戻りたいとザンビア YWCA に伝えました。ムナルラが一夫多妻婚による 3 番目の妻であるのを知った YWCA スタッフは、ムナルラの夫に、ムナルラの教育への権利や、彼が違法行為によって侵害した彼女の SRHR などについて教えました。その結果、相談員の支援により、ムナルラは昨年復学することができました。

現在、ムナルラはカオマ中等学校の 10 年生で、カオマ YWCA のスタッフが授業料を負担しています。家族にも再び受け容れられ、別れた夫は子どもの養育費を出しています。

ザンビア YWCA は以下の主要 4 分野に重点を置いて活動しています。

- ① 弱い立場に置かれたグループ、特に女性と若者をエンパワーする。
- ② SRHR、特に女性と少女の SRHR を促進する。
- ③ ジェンダーに基づく暴力など、権利の侵害に関する課題に取り組む。
- ④ コミュニティや学校へのアウトリーチ¹活動。



¹ 自発的に申し出をしない人々に対して、積極的に働きかけて支援の実現をめざすこと。

世界とつながる

2014 年国連人権理事会をふり返って

世界 YWCA 広報担当
マルシア・バナスコ

2014 年は国連人権理事会(UNHRC)にとって特別な年でした。女性に対する暴力、特に紛争下の性的暴力や児童婚・早婚・強制婚(child, early and forced marriage, CEFM)への取り組みが進展したからです。

3 月、国際連合人口基金(UNFPA)が CEFM に関連して「結婚するには早すぎる(Too Young To Wed)」という展覧会を開き、児童婚から救出された経験を持つ人権活動家でザンビア YWCA のエルネスティナ・マリ・アム・ミチェロがゲスト・スピーカーとして参加しました。世界 YWCA は、アフリカ女性連合(Femme Africa Solidarité, FAS)や婦人国際平和自由連盟(WILPF)と連携して、コンゴ民主共和国で横行する性的暴力やジェンダーに基づく暴力のすさまじい拡大に懸念を表明する共同声明を出しました。

6 月の国連人権理事会では、女性に対する暴力(VAW)に関する特別報告者のマンジョー教授が、女性に対する暴力、およびその原因と結果について報告し、「VAW はあらゆる社会で最も広範に及ぶ人権侵害だ」と述べました。

この 6 月の人権理事会はさまざまな意味で歴史的でした。第 1 回 CEFM の防止と根絶に関する人権理事会ハイレベル・パネルが開かれ、加盟各国が取り組むべき人権侵害としての CEFM を議論する機会となりました。世界 YWCA はこのような機会が実現するよう、絶えずロビー活動を行い、口頭陳述をしてきました。

しかし、これまでの進展は、保守的な議事を推し進める強硬な伝統的原理主義者によって損なわれてもいます。例えば「家族の保護」に関する国連人権理事会決議です。この決議では、「家族」が何から保護されることが必要であるのかを明確にせず、単に「保護」の側面にしか焦点を当てていません。

特別報告者のマンジョー教授によれば、VAW の中で最も横行しているのは、ドメスティック・バイオレンスです。「家族の保護」は、個人の安全や幸福また健康を守るために、家族から離れる必要のある各々の事情があるのにも関わらず、家族の単位を守る必要性を意味しています。世界 YWCA は、家族一人ひとりの保護を重視することが大切だと考えています。この家族の保護に関する決議は、家族の虐待を受けている女性たちに忍耐を強制し、虐待を受けている子どもたちを危険な家庭に置いておく、口実に利用されかね

ません。この決議は、ひとり親家庭・両親が同性の家庭・子どもが世帯主の家庭・合同家族・離婚経験者で築いた家庭など、家族の多様な在り方も、社会的支援や権利保護が多方面で必要であることも、認めていません。

9月の人権理事会では、世界YWCAは2人の南スーダンの女性を招きました。彼女たちは自分の体験を語り、和平プロセスへの女性の意義ある参画を提案しました。世界YWCAは紛争下の女性に対する暴力行為、特に殺害やレイプなど、性的暴力やジェンダーに基づく暴力に関心を持つことを、重ねて呼びかけました。

2014年中、コンゴ民主共和国・パレスチナ・南スーダン・シリアなど、世界各地で紛争が激化した際も、依然として女性・若い女性・少女たちは、暴力に対して最も脆弱でした。私たちは、人権擁護者が脅されたり、脅迫されたり、殺害されることを知りました。また、女性の権利に対する反発を目の当たりにしました。今こそ、私たちは連帯して立ち上がり、政府に責任を問わなくてはなりません。国連人権理事会は、各NGOが直接政府の責任を問える場を提供している重要国連機関であり、それゆえに、そこに関わることはNGOにとって欠かせない機会となるのです。



権利を主張する若い女性たち

キャンパーからユースリーダーに

レバノン YWCA

ナショナル・ユース・コーディネーター

ナハム・ナッサー



YWCA は私の人生で重要な役割を果たしてきました。母が YWCA 会員なので、とても幼いころから YWCA の活動にかかわってきました。11 歳からキャンプに参加するようになり、気がつくと、さまざまな活動に参加するようになっていました。イベントに定期的に参加するようになり、時と共に、まずはキャンプリーダー、それからキャンプディレクターになりました。

同時に、レバノン YWCA の代表に選ばれ、いくつかのイベントやワークショップに参加しました。2003 年にエジプトで行われた最初のワークショップは、デンマークユース協議会の運営で、デンマークや中東からいくつかの NGO が参加しました。このワークショップの終了後、私たちはいくつかのパートナーと共同で、「ダイアローグ・イン・ダイバーシティ」(多様性の中の会話)というプロジェクトを企画しました。パートナーは、デンマーク YMCA/YWCA、ダンミッション(デンマークの教会関係の NGO)、そして、レバノンの FDCD (Forum for Development, Culture and Dialogue(開発、文化そして会話のフォーラム)です。3 年以上にわたったこのプロジェクトは、大成功をおさめました。さらに私は、ケニア(2007 年)とチューリッヒ(2011 年)で行われた世界総会に、議決権のあるレバノン YWCA 年少会員として参加しました。

2012年には、光栄にもジュネーブにある世界YWCA事務局の長期インターンの一員に選ばれ、広報部、そして特定のプロジェクトに関しては、プログラム部で働きました。多くの課題と学ぶ機会に恵まれた、素晴らしい経験でした。そして、1年間のインターンを終えて帰国後、レバノンYWCAでナショナル・ユース・コーディネーターとして採用されました。

15年以上にわたり、精力的にYWCA会員として活動してきたので、世界YWCAの会則、目的達成に向けた方策と計画の枠組み、および「YWCAにおける適切な組織運営と説明責任の基準(SGMA)」をよく理解しています。また、世界YWCA事務局のインターンとして、世界YWCAスタッフと世界YWCA運営委員会の作業過程にも関わりました。さらに、レバノンYWCAの会員として、地元・地域・世界レベルでのさまざまな活動機会を与えられました。こうしたことで、私の自信・忍耐力・異文化への寛容性が高められました。YWCA以外にも、さまざまな組織(ガールスカウト・赤十字・地元クラブ)でボランティアをしたことで、多くの機会に恵まれ、幅広い経験ができました。大学時代の社会的および政治的活動によって、私は強くなり、交渉力が上がりました。さらに、私は政治的に不安定な場所に住んでいるので、危機的状況に前より上手に対応できるようになり、自分の目標や個人的な望みをかなえるため、一生懸命努力するようになりました。

毎日、困難な状況に遭遇します。私たちの中にどれだけ困難に立ち向かう強さがあるのかということがわかるのは、そのような時です。女性に投資し女性を信頼する、YWCAのようなNGOの会員であることにより、人生のあらゆる状況において、これまでとは違う方法で対処することができるようになります。YWCAで現在受けている、リーダーシップ・紛争解決・人権に関する研修のおかげで、いかなる状況にも私は対処できるということを、私は知っています。

2015 年以降への展望

新しい時代のジェンダー平等

フィンランド外務省 開発政策局
上級アドバイザー(ジェンダー平等担当)
ペイビー・カニスト



私たちは刺激的で胸躍る時代を生きています。未来の世界がより良いところになってほしいと願い、世界中で話し合っています。世界が、エボラや紛争や気候変動などのない、今とは違ったものになってほしいと思っています。このことは、私たちが今までと違うことを、今までとは違う方法で行う必要があることを意味しています。まだ世界中のどの国も試みていないその「こと」とは、ジェンダー平等です。

フィンランドは、ジェンダー平等と女性のエンパワメントをポスト 2015 年開発アジェンダの独立目標とすることを強く支持します。ジェンダー平等は、他のすべての目標にも組み込まれなければなりません。ポスト 2015 年開発アジェンダは、人権に基づいたものであるべきです。

ジェンダー平等は、これまでとは違う方法で推進されねばなりません。持続可能な開発資金に関する会議では、特定の分野への資金提供については明確にされていません。ジェンダー平等に対しても同様です。各国の開発に関する主要責任は、その国にあるという考えから、これらの会議では、財源のありかだけが総合的に検討されてきました。今は、政府予算・ビジネスや貿易・気候変動対策資金・技術革新・その他の財源が、どのようにジェンダー平等を推進することができるかを検討すべき時です。

一つの商取引・貿易協定の提携・新しい発電所の建設・科学技術の採用・森林保護などに関して、それが女性や少女にどのような影響があるかを、私たちは理解しているでしょうか。とりわけ、これらさまざまな変化の過程が、実際に女性や少女や家族の人生や生活水準に良い結果をもたらすために、私たちは何をする必要がありますでしょうか。

私は市民社会に、新しく連帯するよう呼びかけます。連帯の輪の内には、自分の仕事の分野が、女性と少女にとってどんな意味を持っているかということを考えている、原子物理学者・マクロ経済学者・会計監査役・エネルギー技術者・CEO・政治家などの人々が、確実に含まれていなければなりません。彼らはジェンダー平等の支持者の一員であり、その価値を理解しているべきです。

私は、市民社会が、その国そして世界の基準を求めるよう、提案します。世界のすべての国において、ジェンダー平等に対応した政府予算を基準とすることができるでしょうか。どんな国の市民にも、これを要求する力があります。すべての商取引や貿易協定は、女性・男性・少女・少年にどのような影響があるかを理解したうえで締結する、ということを経済基準とすることができるでしょうか。科学技術を新しく採用する際には、女性や少女にとって利用可能か、ということを経済基準とすることはできるでしょうか。

フィンランドは、ジェンダー平等を開発協力における最優先課題としました。またフィンランドは、UN ウィメンと国連人口基金への主要な資金提供国であり、世界銀行など多くの組織のジェンダーに関する活動を支援しています。フィンランドは、女性と少女の地位向上に関する市民社会の活動を、国内外で支援しています。フィンランドが今年、世界 YWCA を支援し共に活動するという決定がなされたことを、うれしく思います。フィンランドは、世界中の若い女性と少女の権利とエンパワメントが推進され、教育と保健分野での成果が確実に継続されることを願っています。ジェンダー平等の力を信じるすべての人は、市民社会・政府・ビジネス界など、どこに属していようと、協働する必要があります。

私は市民社会に、新しく連帯するよう呼びかけます。連帯の輪の内には、自分の仕事の分野が、女性と少女にとってどんな意味を持っているかということを考えている、原子物理学者・マクロ経済学者・会計監査役・エネルギー技術者・CEO・政治家などの人々が、確実に含まれていなければなりません。彼らはジェンダー平等の支持者の一員であり、その価値を理解しているべきです。

YWCA のリーダーたちによる

リーダーシップ名言集

(1) 私たちは時代の 20 年先を歩んでいました。あまりに先を行き過ぎていたので、誰も気に留めませんでした。しかし YWCA 運動は、世界が耳を傾けるまで待つてはいませんでした。代わりに、キリスト教の教義に基づき、YWCA の信念を実行に移しました。「言う」だけでなく「実行」という姿勢で、女性に対する教育と、女性がリーダーシップをとり意思決定に参加できるような研修を開始しました。

エリザベス・パーマー(世界 YWCA 総幹事、1955-1978)

(2) 若い女性のリーダーシップを養成する場を提供することは、後継者育成計画および YWCA のような定評のある団体が確実に継続していくために必要です。

リサ・ヘイズ(ニュージーランド/アオテオラ YWCA、元運営委員)

(3) 若い女性のリーダーシップ養成は、献身的に情熱をもって継続することが必要です。特に YWCA の持続可能性と継続性にとって必要なものです。現在のリーダーたちは、若い女性を養成し、リーダーシップの権限を委譲せねばなりません。同時に、適切な指導と管理責任教育、メンタリングも行わねばなりません。

タルシラ・ブラボウ(フィジー YWCA、元運営委員)

(4) 奉仕の精神が、あなたからなくなることはないでしょう。どこで女性がリーダーシップを発揮しようとも、それは 'YWCA' で培われたものです。

レナ・アンダーソン(キングストン YWCA、プログラム担当幹事、1958)

(5) YWCA 研修は、単にスキルを教えるだけのものではありません。人々に考えさせ、具体的なスキルを使って問題の解決方法を見つけさせます。

ニタ・バロー(世界 YWCA、会長、1975-1983)

(6) 大事なことは、すべての人が自己の可能性を最大限発揮できるチャンスを得られるようにすることです。

ムリエール・ジョイエ(投資顧問団長)

(7) YWCA はリーダーシップ養成に関して大きな強みを持っています。YWCA の充実した研修によって、若い女性は勇気づけられます。YWCA はまた、緊急に助けを必要としている女性にも手を差し伸べます。

メアリー・ロビンソン(メアリー・ロビンソン気候公平性財団)

(8) YWCA のリーダーシップ養成で最優先されるのは若い女性です。経験を積み、責任感を強め、ビジョンを構築するには時間がかかるからです。

ムシンビ・カニヨロ(世界 YWCA 総幹事、1999-2007)

Campaign



世界 YWCA

「どんな言い訳も許さない」キャンペーン

年齢や肌の色などに関係なく、暴力は起きます。暴力は簡単にありとあらゆる境界を越えて広がります。お金の有るなしには関係ありません。キリスト教の教会や、イスラム教のモスク、仏教の寺院の中にも、静かに入り込みます。学校にも忍び込み、暗い路地や静かな道を好みます。暴力は親しげな顔をして友達を装って近寄って来る場合もあります。時には、暴力はそんな風に起きるのよと言われ、時にはあなたが悪いからだとも言われます。暴力をふるう側は、常に言い訳をみつけます。もうそんな言葉のごまかしを許すことはやめましょう。どんな暴力も正当化できません。女性への暴力には「どんな言い訳も許さない」です。暴力を見ないふりをすることに對して、どんな言い訳も許してはなりません。

10月の非暴力週間に向けて、世界YWCAは「どんな言い訳も許さない」キャンペーンを立ち上げました。「お前のせいだ。一家の名誉を傷つけたのはお前なんだから」。「どんな言い訳も許さない」キャンペーンの目的は、暴力が起きた時によく使われる同じような言葉に疑問を呈することです。暴力を振るう側と振られる側の双方が、女性への暴力は女性の基本的な人権の侵害だということに、気づいてさえないことがよくあるのです。キャンペーンのスローガン「どんな言い訳も許さない」の意味は、他人に対する暴力を正当化するものは、何一つないということです。

皆さん、「どんな言い訳も許さない」ウェブページ(www.worldywca.org/noXcuse)を訪問してください。そこには、暴力の被害を受けた女性の声があります。取り組みへの参加のしるしとして、またキャンペーンを活発にし続けるために、次のような方法で、このキャンペーンに参加してください。ハッシュタグ#noXcuseをつけてツイートする、手で×を作った皆さんの写真をアップする、暴力を振るわれた時に言われた言い訳を書いたボードを掲げた写真をアップ。この時に#noXcuseをつけてください。このウェブサイトには「参加するには」のページがあります。生コメント・Twitter・Facebook・Instagramにリンクするためのウォールもあります。

参加しましょう

女性への暴力には「どんな言い訳も許さない」！

人事

退任

マリー＝クロード・ジュルサンは2001年4月に世界YWCAに加わりました。アメリカ大陸・カリブ地域担当を経て、2011年、女性に対する暴力世界プログラム・マネージャーに就任し、世界YWCAと国連人権委員会、女性差別撤廃委員会との協力関係を推進しました。また、国連安保理事会決議1325号の実現に向けて、南スーダン、スリランカ、パレスチナの各YWCAと協働しました。**マリー＝クロード**のさらなる活躍をお祈りします。

シルビー・ジャカットは2007年にコミュニケーション部門に加わりました。2010年にコミュニケーション部長に任命され、その職責を5年間果たしました。コミュニケーション部長として世界YWCAのコミュニケーション・チームを取りまとめました。在任中、シルビーは、YWCAのブランドネームを浸透させ、ソーシャルメディアを活用し、多くの広報資料の作成・配布などを通して、YWCAとその活動における知名度を高めるのに大きく貢献しました。シルビーが次の仕事でも成功を収めることを祈ります。

新任

2014年7月にジンバブエの**リタ・ムヤンボ**が、世界YWCAのプログラム部長に新たに就任しました。リタは17年間にわたり、市民社会団体やNGOで、コミュニティにおけるHIV/AIDSの分野で活動し、国内プログラムの開発・企画・実行、コーディネーション、コミュニティの体制強化、健康関連プロジェクトの管理をアフリカ南部で行った経験を持っています。

2014年7月に**アイーダ・レハウマ**が世界総会およびシステム・コーディネーターとして世界YWCAに加わりました。彼女はスイスとチュニジアの出身ですが、経営管理学と国際関係論の修士号をジュネーブ大学から取得し、特に戦略とイノベーション・マネジメントを専門としています。フランス語・英語・アラビア語・イタリア語に流暢で、ガバナンス・リーダーシップ・持続可能性・女性の人権の実現を含む社会的正義の各分野に精通しており、強い関心も持っています。

フランス出身の**メロディ・シュレファー**が総幹事補佐に任命されました。英語とフランス語に流暢でドイツ語の知識もあります。2014年9月に世界YWCAに加わる前は、国際連合人権高等弁務官事務所で働いていました。

新会長

- タマラ・ブラスウィス(バルバドスYWCA会長)
- ティルツシット・アベイ(エチオピアYWCA会長)

- イウォナ・パシクニック(ポーランド YWCA 会長)
- チクウェ・オチアガ(ナイジェリア YWCA 会長)

新総幹事

- オードリー・ウィルソン(アイルランド YWCA 総幹事)
- ダイアン・カンバネイ(パプアニューギニア YWCA 総幹事)

寄付者

- クロード・ベッテクス=ボウガ(スイス)
- キャサリン・アニー・グラフ=ステム(スイス)
- エリザベス・ラバート・エルブ(スイス) アイラ・ニイニコスキ(フィンランド)
- バレリー・ホーがマラソンを走って得た寄付金すべて

お悔やみ:エリザベス パーマー(1913-2014)

2014 年 10 月 4 日、エリザベス・パーマーは 101 歳で永眠しました。パーマーは YWCA 運動の先駆者であり、それに生涯をささげた卓越したリーダーでした。彼女の先見性と行動力が YWCA に引き継がれた結果、世界 YWCA はもっとも尊敬される団体の一つになり、女性の地位に関するさまざまなグローバル基準を設定するうえで、大きな影響力を持つようになりました。

ニューヨーク出身のエリザベス・パーマーは、YWCA 運動に生涯にわたって献身的に取り組み、また彼女の人種や民族を超えた多様な視点は、YWCA 運動を現代社会に推進させた重要な要素でした。彼女の YWCA での活躍は、アメリカと第二次世界大戦中のイギリスで始まりました。英国では、マンチェスター YWCA の総幹事として 3 年間活動しました。1945 年には世界 YWCA の職員になり、主にベルギーとフランスの YWCA を担当しました。両 YWCA とともに、戦争と占領による非常に困難な状況から抜けだしつつある時期でした。1946 年、彼女はヨーロッパ各国 YWCA の若いリーダーとメンバーが参加する戦後初の会議を企画・運営しました。1947 年、中国杭州市での世界総会に出席した後、彼女は世界 YWCA 東南アジア担当幹事に任命され、東南アジア各国の相互の結びつきと、東南アジアと世界運動との結びつきを強化させました。1952 年にジュネーブの本部に戻り、財務・分析担当幹事になりました。その後 1955 年に総幹事になり、1978 年に退職するまでこの職を続けました。

彼女は国連の創設に協力した 100 人のうちの 3 人の女性の一人として国連のリストに載っています。彼女は、1980 年にコペンハーゲンで開催された第 2 回国連世界女性会議の NGO フォーラムの議長を務めました。世界教会協議会(WCC)と密接な関係をとしつつ、YWCA を、多くの異なる多様な文化・宗教・各国の事情を尊重する、世界的なエキュメニカル運動団体として育てるのに成功しました。YWCA 運動に対するエリザベス・パーマーの多大な貢献と遺産は、世界 YWCA に永遠に記憶されるでしょう。

表紙写真: シャロン・イェンデヴェンゲ (2014 年世界 YWCA インターン)

コモン・コンサーン 日本語版 153 号 2015 年 9 月

翻訳協力 日本 YWCA コモン・コンサーン翻訳グループ

浅原由美・加藤美恵子・黒木聖司・古賀佳子

芝田貞子・林加奈・宮坂浩美

山高万寿子・吉田亜希

編集・発行 日本 YWCA 2015 年 9 月

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

東京 YWCA 会館 302 号室

TEL: 03-3292-6121 FAX: 03-3292-6122

E-mail: office-japan@ywca.or.jp
